

新任教員のための

# ルーブリック作成の手引き

アウトカム重視の大学教育

SOCU Introduction to RUBRICS



山陽小野田市立山口東京理科大学  
FD委員会

## アウトカム重視の大学教育

山陽小野田市立山口東京理科大学FD委員会

大学教育のアウトカムとは、学生が大学教育を通して修得する知識・技能・態度を指すもので、いわば大学教育の成果を指すものです。すなわち、学位プログラムやそれを構成する授業科目など、「一定の学習期間終了時に、学習者が知り、理解し、行い、実演できることを期待される内容を言明したもの」(中教審答申 2008)になります。

学生の学修成果を客観的な指標によって可視化することができる評価ツールの一つとしてルーブリックがあります。ルーブリックは、「他の手段では困難な、パフォーマンス等の定性的な評価に向くとされ、評価者・被評価者の認識の共有、複数の評価者による評価の標準化等のメリットがある」(中教審答申 2021)とされ、学習者に事前に提示することにより、学習者自身が学修到達度を確認する自己評価を促すものとなります。

本学では、能動的学修法であるアクティブ・ラーニングに伴い、プレゼンテーションやスモール・グループ・ディスカッション、実験実習、レポート評価などにおいてルーブリックが活用されています。

本学に新しく就任された先生方が、学習が終了する時点で習得していなければならないラーニング・アウトカムを学習者と評価者がルーブリックにより共有することにより、学習者が何をどこまで習得したかという学習パラダイムにより教育活動に取組まれることを期待します。

# CONTENTS

---

|          |                      |    |
|----------|----------------------|----|
| <b>1</b> | ルーズブリック4つの要素 .....   | 1  |
| <b>2</b> | ルーズブリックの作成手順 .....   | 2  |
| <b>3</b> | ルーズブリックを使った採点 .....  | 6  |
| <b>4</b> | ルーズブリックを使うメリット ..... | 11 |
| <b>5</b> | ルーズブリックのサンプル .....   | 12 |
| <b>6</b> | ルーズブリックと授業改善 .....   | 16 |
| <b>7</b> | 学生へのルーズブリックの開示 ..... | 17 |

# 1 ルーブリック4つの要素

ルーブリックは、次の4つの要素で構成され、表形式で配置します(図1)。

- ① 課題
- ② 評価尺度(達成レベル・成績評価点)
- ③ 評価観点(課題が求める具体的なスキルや知識)
- ④ 評価基準(具体的なフィードバック内容)

図1. 基本的なルーブリックの表

課題

|       | 評価尺度1   | 評価尺度2   | 評価尺度3   |
|-------|---------|---------|---------|
| 評価観点1 | 評価基準1－1 | 評価基準1－2 | 評価基準1－3 |
| 評価観点2 | 評価基準2－1 | 評価基準2－2 | 評価基準2－3 |
| 評価観点3 | 評価基準3－1 | 評価基準3－2 | 評価基準3－3 |
| 評価観点4 | 評価基準4－1 | 評価基準4－2 | 評価基準4－3 |

上図では3つの評価尺度と4つの評価観点を使用しています。評価尺度については最大で5つ、評価観点については最大で6又は7つが一般的です。

## 2 ルーブリックの作成手順

### ① 課題

はじめに、ルーブリックの上に課題を記述します。課題には、レポート、プレゼンテーション、授業への参加、実験室内でのルール遵守、授業中に求められるマナーといった、教員が学生に期待する行動を記述します。

また、ルーブリックの名前である表題を付けます。

#### 変容する山口県のコミュニティ

課題:各学生は、山口県内のコミュニティを一つ取り上げて、過去 30 年間の変化について、5 分間のプレゼンテーションを行う。自分の好きなように発表内容を絞り込んで構わないが、単に年代順の説明ではなく、何らかの仮説と論証がなければならない。発表には、適切な写真、グラフなどの視覚に訴えるものが含まれていなければならない。

|       | 評価尺度1 | 評価尺度2 | 評価尺度3 |
|-------|-------|-------|-------|
| 評価観点1 |       |       |       |
| 評価観点2 |       |       |       |
| 評価観点3 |       |       |       |
| 評価観点4 |       |       |       |

## ② 評価尺度

評価尺度は、与えられた課題がどれだけ達成されたかを表すもので、ルーブリック表の行見出しに記述します。ルーブリックの評価尺度には決められた段階数はありませんが、段階を増やすと段階間の違いを付けることが難しくなります。3段階ルーブリックは比較的つくりやすく、多くても5段階を上限とするのが一般的です。

評価尺度の達成レベルを記述するために使用される評語には次のものがあります。

### 評価尺度の評語の例

- ・ 上級者／中級者の上／中級者／初級者
- ・ 高度／有能／やや有能／もう少しで有能
- ・ 特に優秀／かなり優秀／前進途中／萌芽的
- ・ 目標到達／平均的／発展途上／初期
- ・ 卓越／有能／中間／初歩
- ・ レベル3／レベル2／レベル1
- ・ 模範的／有能／初歩
- ・ 熟達／中間／初歩
- ・ 模範／有能／もう少しで有能
- ・ 優秀／良／発展途上
- ・ 強み／普通／弱み

### 変容する山口県のコミュニティ

課題:各学生は、山口県内のコミュニティを一つ取り上げて、過去 30 年間の変化について、5 分間のプレゼンテーションを行う。自分の好きなように発表内容を絞り込んで構わないが、単に年代順の説明ではなく、何らかの仮説と論証がなければならない。発表には、適切な写真、グラフなどの視覚に訴えるものが含まれていなければならない。

|       | 優秀 | 良      | 要再学習 |
|-------|----|--------|------|
| 評価観点1 |    | ② 評価尺度 |      |
| 評価観点2 |    |        |      |
| 評価観点3 |    |        |      |
| 評価観点4 |    |        |      |

### ③ 評価観点

課題をいくつかの評価観点に分けて配置します。それぞれの評価観点に割合やポイントを付けると、その課題の各側面の相対的な重要度を強調することができます。

ルーブリックの観点評価は、スキルを示すとともに、採点終了後に学生自身に評価観点ごとに強みと弱みを素早く把握する機会を与えることになります。

#### 変容する山口県のコミュニティ

課題:各学生は、山口県内のコミュニティを一つ取り上げて、過去 30 年間の変化について、5 分間のプレゼンテーションを行う。自分の好きなように発表内容を絞り込んで構わないが、単に年代順の説明ではなく、何らかの仮説と論証が必要。発表には、適切な写真、グラフなどの視覚に訴えるものが含まれていなければならない。

|                   | 優秀 | 良 | 要再学習 |
|-------------------|----|---|------|
| 知識・理解<br>20%      |    |   |      |
| 思考・探求<br>30%      |    |   |      |
| コミュニケーション<br>20%  |    |   |      |
| 視覚に訴える補助資料<br>20% |    |   |      |
| プレゼンスキル<br>10%    |    |   |      |

### ③ 評価観点

## ④ 評価基準

評価観点ごとに評価基準を記載します。最も高いレベルの箇所では、理想的なレベルを記載します。評価尺度のレベルが一段下がった箇所では、理想的なレベルと比較してどこが違うかを記載し、最も低いレベルの箇所では、達成すべきだったことを強調して記載することで、できなかったという事実のみではなく、達成の可能性も強調します。

### 変容する山口県のコミュニティ

課題:各学生は、山口県内のコミュニティを一つ取り上げて、過去 20 年間の変化について、5 分間のプレゼンテーションを行う。自分の好きなように発表内容を絞り込んで構わないが、単に年代順の説明ではなく、何らかの仮説と論証がなければならぬ。発表には、適切な写真、グラフなどの視覚に訴えるものが含まれていなければならない。

|                   | 優秀                                                                                                                                              | 良                                                                                                                                            | 要再学習                                                                                                                                            |
|-------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 知識・理解<br>20%      | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表は主張を裏付ける、関連する適切で詳細な資料を使っている。それが歴史的理解の深さを表している。</li> <li>調査は徹底してなされており、授業や課題文献で出されたものを超えている。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表は総じて正しいが、一部不正確な知識を使っている。総じて主張と関連している。</li> <li>調査は適切であるが、授業や課題文献で示されていた以上のものとはなっていない。</li> </ul>    | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表はあまり関係のない不正確な情報を使っている。しかも授業や課題文献にも扱われていない情報である。</li> <li>調査をほとんどしていないか、全くしていないことが明らかである。</li> </ul>    |
| 思考・探求<br>30%      | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表は主張に沿ったものであり、高度に深められた、歴史的かつ社会的な事象への認識並びに概念的思考能力の高さを示している。</li> </ul>                                   | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表には分析的な構造が見られ、中心となる主張を明示している。しかし分析は完全に深められていないところや論文と関係付けられていないところもある。</li> </ul>                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表は分析的な構造が見られず、中心となる主張と全くずれている。</li> </ul>                                                               |
| コミュニケーション<br>20%  | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表は想像力に富み、聴き手に主張を伝えるのに効果的である。</li> <li>発表者は聴き手の反応と質問に効果的に対応している。</li> </ul>                              | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表の技術は主要な主張を伝えるには効果的であるが、想像性に若干欠ける。</li> <li>聴き手からの質問に答えられなかったものがある。</li> </ul>                       | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表は聴き手の興味をつかむことに失敗し何を伝えるべきかで混乱している。</li> </ul>                                                           |
| 視覚に訴える補助資料<br>20% | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表は適切でわかりやすい視覚資料を含んでいる。発表者は適宜その資料に言及し説明している。</li> </ul>                                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表は適切な視覚資料を含むが、少なすぎて使用や理解を困難にしている。もしくは発表者がその資料について言及しない説明をしていない。</li> </ul>                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表は視覚資料を全く含んでいない。含んでいても不適切であり、理解するには小さすぎるかごちゃごちゃしすぎている。</li> <li>発表者はその資料について全く言及していない。</li> </ul>       |
| プレゼンスキル<br>10%    | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表者は聴き手に聞こえるように、はっきりと大きな声で話している。聴き手を引き込むようにアイコンタクト、元気な声の調子、ジェスチャー、ボディーランゲージが使われている。</li> </ul>           | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表者は聞こえるように、はっきりと大きな声で話しているが、だらだら話しがちである。もしくはアイコンタクト、ジェスチャー、ボディーランゲージを継続して効果的に使えていないことがある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>発表が聞こえない。もしくは聴き手が理解できないくらい不明確に離れている。</li> <li>アイコンタクト、ジェスチャー、ボディーランゲージなど聴き手を引きつけようとする試みが全くない。</li> </ul> |

参考:スティーブンス・レビ「大学教員のためのルーブルック評価入門」

## ④ 評価基準

## 3 ルーブリックを使った採点

ルーブリックにチェック、丸囲み、言葉によるコメントのいずれかを用いることで、学生に対し詳細な形成的フィードバックを行うことができます。

- ① チェック式ルーブリック
- ② 丸囲み式ルーブリック
- ③ コメント式ルーブリック
- ④ 評価尺度式ルーブリック

## ① チェック式ルーブリック

チェック式ルーブリックは、評価のスピードやその容易さという点では最も優れています。発表を聞きながら、それぞれの該当項目をチェックすれば良いため、短時間で詳細に評価しなくてはならない場合に適しています。

### プレゼンテーション用ルーブリック

学生氏名( ) テーマ( )

|           | 模範的                                                                                                                                                                                                                    | 有能                                                                                                                                                                                                                                                                  | 発展途上                                                                                                                                                                                                          |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| グループの発表技法 | <input checked="" type="checkbox"/> 発表においてグループのメンバーが等しく活躍する機会があった。<br><input type="checkbox"/> 各メンバーの発表がつながっておりトピックに関する論理的な議論を深めるものであった。<br><input checked="" type="checkbox"/> メンバーは互いに敬意を払い尊重し合っていた。                 | <input type="checkbox"/> 各メンバーに割り振られた発表時間や発表内容に偏りがあった。<br><input checked="" type="checkbox"/> 各メンバーの発表がつながっており概してトピックに関する論理的な議論を深めるものであった。しかし全体的な発表の方向性が失われることがあった。<br><input type="checkbox"/> メンバーは概して互いに敬意を払い尊重し合っていたが、他のメンバーの発表を聞いていないという問題も見られた。               | <input type="checkbox"/> 各メンバーに割り振られた発表時間や発表内容には著しい偏りがあり、特定のメンバーに役割が集中していた。<br><input type="checkbox"/> 各メンバーの発表のつなげ方には明確な論理性がほとんど見られなかった。<br><input type="checkbox"/> メンバーは互いに敬意を払い尊重し合っているようには見受けられなかった。    |
| 全体の構成     | <input checked="" type="checkbox"/> 最初にグループ全体としての主題文が提示され、発表全体がその主題文に沿ったものであった。<br><input type="checkbox"/> 扱おうとするトピックが提示され、全体的な発表の方向性が明確に示された。                                                                        | <input type="checkbox"/> グループ全体としての主題文は、発表が進む中で何とか伝わったが、不明確であったり、直接的な言及がなかったりした。<br><input type="checkbox"/> 主題分は明確にされたが、発表はそれに沿ったものではなかった。<br><input checked="" type="checkbox"/> 扱おうとするトピックや全体的な発表の方向性は提示されたが、実際の発表はそうならなかった。                                     | <input type="checkbox"/> グループ全体としての主題文が提示されなかった。<br><input type="checkbox"/> 扱おうとするトピックや全体的な発表の方向性が提示されなかった。<br><input type="checkbox"/> 発表が進行するなかで、まとまりを欠き、焦点が定まらなかった。                                       |
| 個人の発表技法   | <input type="checkbox"/> 明瞭で、早口になったり叫んだりすることなく、十分な声量で話した。抑揚や声の質も調整できていた。<br><input checked="" type="checkbox"/> 表現豊かでジェスチャーが伴っていた。聴衆とのアイコンタクトも維持されていた。<br><input type="checkbox"/> 不必要に長く話すことなく、割り当てられた時間をフルに使うことができた。 | <input checked="" type="checkbox"/> 聞き取ることはできたが、話し方が不明瞭、話すスピードが速すぎる又は遅すぎる、ささやき声になる、叫ぶ、担当であるという問題があった。<br><input type="checkbox"/> 内容からひどく気をそらされるほどではなかったが、落ち着きがない、緊張がほぐれない、全く聴衆に目を向けない、無意味に体を動かすなどの問題があった。<br><input checked="" type="checkbox"/> 発表時間が長すぎた、又は短すぎた。 | <input type="checkbox"/> 話し方が不明瞭、話すスピードが速すぎる又は遅すぎる、ささやき声になる、叫ぶ、担当であるという問題があった。<br><input type="checkbox"/> 落ち着きがない、緊張がほぐれない、全く聴衆に目を向けない、無意味な動作があった。<br><input type="checkbox"/> 割り当てられた時間と比べて大幅に長い又は短い発表であった。 |
| 個人の発表構成   | <input checked="" type="checkbox"/> 個々の発表はそれ自体が導入、展開、結論を備え、よくまとまっていた。<br><input type="checkbox"/> 発表がどう構成されているかが、パワーポイント、配付資料等を適切に使用することによって強調され、聴衆に明確に伝えられた。                                                          | <input type="checkbox"/> 個々の発表は概してよくまとまっていたが、導入、展開、結論という構成に問題があった。<br><input checked="" type="checkbox"/> 発表はパワーポイント、配付資料等を使用した、文字数が多すぎたり、曖昧であったりしたため、聴衆にとっては発表がわかりにくかった。                                                                                           | <input type="checkbox"/> 発表は導入、展開、結論という構成になっておらず、まとまりのないものであった。<br><input type="checkbox"/> パワーポイント、配付資料等は使用されなかった。または聴衆が発表の構成を理解する助けにはほとんどなかった。                                                              |
| 個人の発表内容   | <input checked="" type="checkbox"/> 事実や事例は詳細かつ正確で適切なものであった。<br><input checked="" type="checkbox"/> 言及された理論・学説は正確で適切に使われていた。<br><input type="checkbox"/> 分析、議論、結論は明示的に事例、事実、理論・学説と結び付けられている。                            | <input type="checkbox"/> 概して事実や事例は詳細かつ正確で適切なものであったが、誤りや欠落もあった。<br><input type="checkbox"/> 理論・学説の言及はあったが、不正確又は不適切であった。<br><input checked="" type="checkbox"/> 分析、議論、結論の関連性は明白又は示唆されていたが、事例、事実、理論・学説と明示的には結び付けられていなかった。                                              | <input type="checkbox"/> 事実や事例は詳細ではなく、不正確、不適切なものであった。<br><input type="checkbox"/> 言及された理論・学説は不正確、不適切であった。又は理論・学説は言及されなかった。<br><input type="checkbox"/> 分析、議論、結論と事例、事実、理論・学説とが明確に結び付けられていなかった。                 |

## ② 丸囲み式ルーブリック

発表を聞きながら、該当部分を丸で囲むことで、フィードバックを行います。丸囲み式ルーブリックは、各評価基準がシンプルな場合に適しています。

### プレゼンテーション用ルーブリック

学生氏名( ) テーマ( )

|         | 合格(プロ級)                                          | 合格                                                    | 合格(要改善)                                                  | 不合格                                                  | 成績             |
|---------|--------------------------------------------------|-------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------|------------------------------------------------------|----------------|
| 内容      | プレゼンテーションやその後の質問に対する回答は十分な、必要とされる以上の内容理解に基づいている。 | 材料をしっかりとまとめたプレゼンテーションで、すべての質問に的確に回答できるが、詳細にというわけではない。 | 情報を十分に理解しておらず、初歩段階のプレゼンテーション及び質問への回答となった                 | 情報が理解できていない。なかには誤解もある。質問に正確に答えられない。                  | B <sup>+</sup> |
| 構成      | 情報は論理的かつ興味を引く順序で提示され、聴衆は内容を容易に辿ることができる。          | 情報は論理的かつ興味を引く順序で提示され、聴衆は内容を容易に辿ることができる。しかし少し退屈である。    | プレゼンテーションには大きな飛躍があり、内容を辿るのは不可能ではないにせよ困難である。              | 論理的な順序で組み立てられたプレゼンテーションではないので、聴衆はその内容を理解できない。        | C              |
| 図表      | 図表等は発表内容の説明に役立ち効果的である。                           | 図表等は発表内容と関連している。                                      | 図表等は非常に少ない。あるいは発表内容との関連が薄い。                              | 図表等は使われない。あるいは過剰である。                                 | B              |
| 英語      | 綴りや文法上の誤りがない。                                    | 綴りや文法上の誤りは2個以内である。                                    | 綴りや文法上の誤りが3個ある。                                          | 綴りや文法上の誤りが4個以上ある。                                    | A              |
| 話し方     | 明瞭で正確かつ的確な話し方である。声量は大きく楽に聞き取れる。容易に理解できる速さである。    | はっきりと話し、ほとんどの語句の発音は正確である。声量は大きく楽に聞き取れる。容易に理解できる速さである。 | 話し方が不明瞭である。主要な語句の発音が間違っていることが多い。声が小さい。あるいは速すぎて容易に理解できない。 | 口ごもった話し方をする。大半の主要な語句の発音を間違える。声が小さく、あるいは速すぎるため理解できない。 | C              |
| アイコンタクト | 常にアイコンタクトがある。原稿を見ることは全くないか、最小限である。               | アイコンタクトは持続的に行われるが、原稿を見ることが多すぎる。                       | ときにはアイコンタクトがあるが、たいていは原稿を読んでいる。                           | アイコンタクトはなく、ずっと原稿を読んでいる。                              | B <sup>-</sup> |

### ③ コメント式ルーブリック

各学生に対して、個別の柔軟な評価が可能になります。課題の自由度を高くし学生に好きなように取り組ませる場合や、自由度の高い課題に適しています。

#### プレゼンテーション用ルーブリック

学生氏名( ) テーマ( )

課題: 指定された文献について10分のプレゼンテーションを行う。描かれている時代の科学的、経済的、政治的側面とこの文献とがどのように関連しているかを論じることが期待されている。

| 領域        | 評価基準                                                                                                                                                 | コメント                                                            |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------|
| 導入        | 導入は聴衆にとって次の3点が明確に予測できるものとなっている。(1)発表者はその書籍をどう感じているか。(2)発表者はどのような理論あるいは理論上の枠組みを紹介しようとしているのか。(3)発表者はどのように結論付けようとしているか。                                 | すべて簡潔に述べられている。要点を示すのにパワーポイントが使われた。                              |
| 構成        | プレゼンテーションは論理的な議論となるように、また一括して議論されるべきトピックは1つにまとめて提示するよう構成されている。                                                                                       | パワーポイントのスライドは順序よく組み立てられていた。説明文も明確で、構成や関係がわかりやすかった。              |
| 内容        | 発表者はこの文献によって提起される歴史的問題を論じている。また他の研究者や歴史家がこの書籍に関連する観点から、あるいは一般的な観点からそれらの問題をどう扱ってきたかも論じている。発表者はそれらの問題に関して自己の立場を説明し、最も妥当であると考えられる理論がどれであるかを理由とともに述べている。 | この文献が日本と国でどう見られているかについての情報をもっと利用するべきであった。                       |
| 根拠        | 自己の分析を裏付けるために、発表者はこの文献や他の資料から十分かつ詳細な事例を提示している。                                                                                                       | 事例を織り交ぜテーマに沿ったものであったが、もう少し裏付けとなる分析を進める必要があった。                   |
| 分析        | この文献がどのように事象の理解に役立ったか、あるいは役立たなかったかに関しての、一貫性のある論理的な分析を裏付けるため、発表者はその根拠を示している。                                                                          | 専門的かつ一貫性のある論理的な分析が行われ大変素晴らしい。                                   |
| プレゼンテーション | 発表者は明瞭に、速すぎることなく、適度な声の大きさと話す。適切で効果的なジェスチャーや動作が伴い、聴衆とのアイコンタクトを欠かさない。視聴覚機器を用いる場合、技術的なトラブルはなく、内容は適切で、発表のなかで言及されている。                                     | 動画を流したのは効果的であったが、プレゼンテーションの時間が長すぎる。動画への言及が1度しかなかったのではなおさらそうである。 |

#### ④ 評価尺度式ルーブリック

発表を聞きながら、該当する評価尺度をチェックすることで、フィードバックを行います。発表を学生同士が評価し合う場合に適しています。

#### フェローグループメンバー評価用ルーブリック

テーマ( )

採点者( )

評価対象のグループメンバー氏名( )

| このグループメンバーは…               | ほぼ常に                     | しばしば                     | ときどき                     | ほとんど<br>ない               |
|----------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|--------------------------|
| 適正な任務を受け持った                | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| グループ活動に積極的に参加した            | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 有益な意見、提案、コメントを与えた          | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 注意深く耳を傾けた                  | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 他人に対して配慮し、他人の意見を正しく評価した    | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 必要に応じ、他者に自分の意見を明確に述べるよう求めた | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| 会話を独占しなかった。また他人の発言を遮らなかった  | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| グループがコンセンサスを形成できるよう努力した    | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| グループの議論が議題から逸れないように努力した    | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |
| グループが時間を無駄にしないように努力した      | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> | <input type="checkbox"/> |

## 4 ルーブリックを使うメリット

ルーブリックは時間を節約し、タイミング良く、意味のあるフィードバックを学生に返すことができ、教育・学習の過程において効果的な役割を担うことができます。実用性、教育手法、公平さという観点から、ルーブリックを使うメリットとして、次のものが挙げられます。

### ●学生によるフィードバックの活用

ルーブリックのフィードバックは、教員が学生の課題に対して最高の評価に達しないのはなぜで、どうすればもっと良くなるのかという助言を行っていることと同じです。

### ●批判的思考力のトレーニング

ルーブリックの結果から自身の学習について批判的・客観的に振り返ることを学生に促すことで、自己評価と自己改善を習慣化するよう、学生を奮い立たせる道具となります。

### ●コミュニケーションの活性化

学生は、教育とは具体的な知識を吸収することであると考えがちです。ルーブリックを使えば、主観と客観、分析、討論、批判的思考、序論と結論といった、教員にとっては当たり前の学術用語の概念を学生が理解し、実際に話せるようになる手助けとなります。

### ●タイミングの良いフィードバック

ルーブリックは、教員にとっては簡単な採点方法であり、学生にとってはタイミング良く詳細で読みやすいフィードバックとなります。

### ●授業内容の点検、教育技法の向上

ルーブリックの結果は、授業の盲点、改善する点をピンポイントで知ることができます。例えば、多くの学生が引用の仕方で間違っているならば、授業でもっと引用の仕方を話す必要があることを知らせてくれます。

## 5 ルーブリックのサンプル

ルーブリックのサンプルを次のとおり紹介します。

### 実験のルーブリック

課題: 以下のルーブリックに示されている手順・方法により、指示された実験を行い、実験レポートを次の授業開始時に提出すること。

|       | 模範的                                                                                  | 有能                                                                                           | 努力を期待                                                                           |
|-------|--------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------|
| 材料・器具 | 必要な物品がすべてそろっており、それらが漏れなく実験レポートに記録された。用意された物品は実験で使用するのに適切なものである。学生は物品を無駄に使用することはなかった。 | 必要な物品がすべてそろっていたが、実験レポートに記録されていない品目がある。あるいは一部の物品が用意されておらず、実験中に調達した。用意された物品は実験で使用するのに適切なものである。 | 必要な物品の一部が準備されていないか、実験レポートへの記載漏れがあったりした。用意された物品は実験で使用するのに適切とはいえない。あるいは重大な欠落がある。  |
| 実験手順  | 実験手順はよく練られたもので、選択されたすべての変数について対照実験を行った。実験手順のすべての段階が実験レポートに記載されている。                   | 実験手順には改善の余地があるが、選択されたすべての変数について対照実験を行った。実験手順のほとんどの段階が実験レポートに記載されている。                         | 実験手順は、選択されたすべての変数につき、対照実験を行うものではない。実験手順のうち、多くの段階が実験レポートに記載されていない。               |
| 安全・礼儀 | 学生は整然と実験を進行し、周囲への気配りを怠らなかった。安全にも配慮し、後片付けや清掃をしっかりと行った。                                | 学生は概して整然と実験を進行した。十分ではないにせよ、周囲への気配りや安全への配慮があった。指摘を受けると、後片付けや清掃をしっかりと行った。                      | 学生は雑然と実験を行い、周囲への気配りや安全への配慮がなかった。後片付けや清掃は指摘されても十分に行わなかった。                        |
| 実験目的  | 実験課題と仮説が明確に述べられ、両者の関係が明白である。変数が選択されている。                                              | 実験課題と仮説が述べられているが、そのいずれか又は両方が不明確である。あるいは両者の関係が不明確である。変数が選択されている。                              | 実験課題と仮説が明確に述べられていない。両者の関係は不明確又は欠如している。変数が選択されていない。                              |
| データ収集 | 未加工データが単位とともに適切な方法で明確に記録されている。データ表には表題が付けられている。                                      | 未加工データが単位とともに記録されているが、適切さや明確さに問題がある。データ表には表題が付けられている。                                        | 単位を含め、未加工データの記録は不適切あるいは不明確である。データ表には表題が付けられていない。                                |
| データ分析 | データは図表やグラフ等で提示され、理解や解釈が容易になるよう工夫されていた。エラー分析がなされている。                                  | データは図表やグラフ等で提示された。その理解や解釈は可能であったが改善の余地がある。エラー分析がなされている。                                      | 図表やグラフ等によるデータ提示は非常に不明確であった。エラー分析はなされていない。                                       |
| 実験の評価 | 実験結果は十分に分析・解釈され、文献値とも照合されている。この方法による限界や弱点が考察され、改良方法について提案がなされている。                    | 実験結果は分析・解釈され、文献値とも照合されているが、改善の余地がある。この方法による限界や弱点が考察されているものの、改良方法について提案はほとんどあるいは全くない。         | 実験結果の論理的な分析・解釈が行われていない。あるいは文献値と照合されていない。この方法による限界や弱点の考察はなく、改良方法についても何ら提案されていない。 |

### PBLにおける効果的なコミュニケーション

課題: 問題解決型の授業(PBL)による効果的なコミュニケーション

|                | レベル3                                         | レベル2                                      | レベル1                           |
|----------------|----------------------------------------------|-------------------------------------------|--------------------------------|
| 書面によるコミュニケーション | 多様な意見を収集し、かつ根拠をまとめた内容の充実した文章を書くことができる        | 読み手に対して自分の意見を主張するため、根拠によって裏づけした図を書くことができる | 基本情報を文章で提供することができる             |
| 口頭によるコミュニケーション | 提案に対するフィードバックに加え、口頭での回答弁護ができる                | 聴き手に合った説明を準備し発表することができる                   | 必要な情報を口頭で説明し質問を受け取ることができる      |
| チームワーク         | 時間・スキル・コストなどの制約条件を踏まえてチームの目標に併せてプロジェクトを推進できる | 複雑な状況に応じた自分の役割を見きわめ適時貢献できる                | グループのメンバーとして指示を仰ぎながら活動することができる |

## 文献レビューのルーブリック

課題: 自分の卒業研究課題のテーマに関わる論文を少なくとも10本見つけること。それらの論文についてそれがどのように自分のテーマに関わり、テーマへの理解を深めるかを示す5～10ページのレビューを書きなさい。このレポートは、別科目で完成することになる卒業研究課題の執筆につながるものである。

| 領域     | 期待以上<br>(4 ポイント)                                                                                                                                                                          | 期待通り<br>(3 ポイント)                                                                                                                                       | やや改善が必要<br>(2 ポイント)                                                                                                                                  | 根本的改善が必要<br>(1 ポイント)                                                                                                                                                   | 不可<br>(0) |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------|
| 問題設定   | <ul style="list-style-type: none"> <li>導入のパラグラフにおいて明確に問題が記述されている。</li> <li>導入部で読者を問題へと引きつけることができている。</li> <li>詳細及び記述的用語が多く使われている。</li> <li>最初の数パラグラフにおいて主題文が明確にされている。</li> </ul>          | <ul style="list-style-type: none"> <li>問題が明確に記述されている。</li> <li>読者を引きつける努力は認められるが、説得力に欠ける。</li> <li>最初の数パラグラフにおいて命題が明確にされている。</li> </ul>                | <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートにおいて問題が大きく取り扱われていない。</li> <li>問題の説明が不十分である。</li> <li>主題文が弱く説得力に欠ける。</li> </ul>                            | <ul style="list-style-type: none"> <li>レポートの内容と問題が関わっていない。</li> <li>レポートに明確な導入部がなく、文献レビューから始まっている。</li> </ul>                                                          |           |
| 参考文献   | <ul style="list-style-type: none"> <li>参考文献はすべて査読されている。</li> <li>少なくとも 10 本参照している。</li> <li>すべて学術論文である。</li> </ul>                                                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>参考文献の多くが査読されている。</li> <li>8～10 本を参照している。</li> <li>多くが学術論文である。</li> </ul>                                        | <ul style="list-style-type: none"> <li>査読された文献が少ない。</li> <li>5～8 本を参照している。</li> <li>書籍が何冊か含まれている。</li> </ul>                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>多くが書籍や一般雑誌の参照である。</li> <li>1～5 本のみの参照である。</li> </ul>                                                                            |           |
| 流れ     | <ul style="list-style-type: none"> <li>論文からの見解が論理的方法で整理されている。</li> <li>主張に際し論文からの情報を慎重に利用している。</li> <li>論文に書かれている内容の構成は明確である。</li> <li>移行文が用いられている。</li> <li>各パラグラフに中心となる文がある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>見解から見解への流れがほぼ論理的である。</li> <li>構成は明確だが、やや飛躍が見られる。</li> <li>移行文がないセクションがある。</li> <li>各パラグラフに中心となる文がある。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>パラグラフからパラグラフへの考えの流れを追うことが難しい。</li> <li>論文からの情報の使い方が不注意である。</li> <li>各パラグラフに中心となる文がなく、移行文が用いられていない。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>見解が文献のものそのままであり、筆者の言葉になっていない。</li> <li>考えの流れを追うことが難しい。</li> <li>音読すると不自然になる。</li> <li>各パラグラフに中心となる文がなく、移行文が用いられていない。</li> </ul> |           |
| 結論     | <ul style="list-style-type: none"> <li>レビューした文献を統合してキーとなる見解を考え出している。</li> <li>主題文を通じて問題と密接に関わっている。</li> </ul>                                                                             | <ul style="list-style-type: none"> <li>レビューをした文献を統合してキーとなる見解を考え出している。</li> <li>問題への関連付けがされているが、推測によるものである。</li> </ul>                                  | <ul style="list-style-type: none"> <li>見解の統合が不十分である。</li> <li>あまり問題に関連付けられていない。</li> </ul>                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>見解の統合ができていない。</li> <li>問題が述べられていない。</li> </ul>                                                                                  |           |
| 書き方の規則 | <ul style="list-style-type: none"> <li>本文及び参考文献リストにおいて完全に論文様式に沿っている。</li> <li>文法的誤りは1カ所まで。</li> </ul>                                                                                     | <ul style="list-style-type: none"> <li>論文様式に2～3の小さな誤りがある。</li> <li>文法的誤りが2～3カ所ある。</li> </ul>                                                           | <ul style="list-style-type: none"> <li>論文様式の意識が明らかに欠けている。</li> <li>文法的誤りにより読みづらい。</li> </ul>                                                         | <ul style="list-style-type: none"> <li>論文様式を用いていない。</li> <li>すべてのページに文法的誤りがあり読みづらい。</li> </ul>                                                                         |           |



## 観点ごとのルーブリック得点を記載した採点簿

4=期待以上、3=期待通り、2=やや改善要、1=かなり改善要、0=不可

| 学籍番号    | 氏名    | 問題設定 | 参考文献 | 流れ | 結論 | 書き方の規則 | 総合得点 |
|---------|-------|------|------|----|----|--------|------|
| R123001 | 〇〇 〇〇 | 4    | 4    | 4  | 4  | 4      | 20   |
| R123002 | 〇〇 〇〇 | 4    | 3    | 3  | 2  | 4      | 16   |
| R123003 | 〇〇 〇〇 | 3    | 2    | 1  | 1  | 1      | 8    |
| R123004 | 〇〇 〇〇 | 4    | 3    | 3  | 1  | 3      | 14   |
| R123005 | 〇〇 〇〇 | 2    | 2    | 3  | 1  | 2      | 10   |

## 研究論文のルーブリック

課題：音声言語病理学・言語病理学における研究論文

|                     | 優 良<br>(90～100 点)                                                                      | 良 好<br>(80～89 点)                                                                     | かろうじて次第<br>(70～79 点)                                                                 | 不十分<br>(0～69 点)                                            |
|---------------------|----------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------|
| 導 入<br>(10 点)       | 導入は読者をスムーズに主題に引込、整理されており、要旨を明確に提示し、著者の見解を述べている。(10 点)                                  | 導入は整理されているが、要旨を適切に提示しておらず、著者の見解を述べていない。(8 点)                                         | 導入は要旨と著者の見解を提示しているが、整理しておらず、流れがスムーズではない。(7 点)                                        | 導入が整理されておらず、理解が困難である。要旨と著者の見解が紹介されていない。(5 点)               |
| 内 容<br>(20 点)       | すべてのセクションを通じて情報が明確かつ完全、正確に提示されている。最低3つの主要なセクションがあり、最低1つの主要なセクションに2～3のサブセクションがある。(20 点) | 情報が不明確であり、1つのセクションは理解が困難である。(18 点)                                                   | 情報が不明確であり、2～3つのセクションは理解が困難である。(16 点)                                                 | 論文は不明確であり、4つ以上のセクションは理解が困難である。(12 点)                       |
| 構 成<br>(20 点)       | 構成は明確であり、構想は良好である。見出し、プレビュー・パラグラフ、主題文、転調は要点の理解を促す。情報は論理的に提示されている。(20 点)                | 1つのセクションで構成が不明確である(まとまりのない段落、下手な主題文、下手な転調)。他のすべてのセクションは論理的に構成されている。(18 点)            | 2～3のセクションの構成が不明確である。または見出しとプレビュー・パラグラフあるいは文書が欠けている。(16 点)                            | 4つ以上のセクションの構成が不明確である。(12 点)                                |
| 結論・独創的な考え<br>(20 点) | 研究を改善するための具体的な考えやその他の考えが、論理的な根拠とともに体系的に提示されている。(20 点)                                  | 具体的な考えが提示されているが、1つの考えに対する論理的な根拠が弱いところがある。(18 点)                                      | 考えは提示されているが、漠然とした一般的な形式である。または、2つ以上の考えに対する論理的な根拠が弱い。(16 点)                           | 主題に関係する独創的な考えが3つ未満しか提示されていない。または、すべての考えが十分に説明されていない。(12 点) |
| 執筆スタイル<br>(10 点)    | 論調は専門的であり、語彙と構文はしっかりとおり、論文全体で理解しやすい用語が使用されている。(10 点)                                   | 論文の1～2つのセクションの構文または語彙が複雑、ぎこちない、あるいは専門用語だらけである。または構文の1～2つのセクションで、単語が間違って使用されている。(7 点) | 論文の3～4つのセクションの構文または語彙が複雑、ぎこちない、あるいは専門用語だらけである。または構文の3～4つのセクションで、単語が間違って使用されている。(5 点) | 執筆スタイルのせいで、論文の4つ以上のセクションで読解が困難である。(3 点)                    |
| 言語の使用・技巧<br>(10 点)  | 論文に綴り、構文、書式、句読点の誤りはない。(10 点)                                                           | 論文に綴り、句読点、書式、構文の誤りは5カ所未満である。(7 点)                                                    | 論文には6～15カ所の綴り、句読点、書式、構文の誤りがある。(5 点)                                                  | 論文全体で16カ所を超える誤りがあり、理解が困難である。(3 点)                          |
| APA ルール<br>(10 点)   | 引用、見出し、数字、級数、格言、参考文献などについて、すべてにAPAルールが守られている。(10 点)                                    | APA ルールの違反は3カ所未満である。または、引用や参考文献の欠落または誤りが1～2カ所ある。(7 点)                                | APA ルールの違反は4～10カ所である。かつ/または、引用や参考文献の欠落または誤りが3～5カ所ある。(5 点)                            | APA ルールの違反が11カ所以上ある。かつ/または、引用や参考文献の欠落または誤りが6カ所以上ある。(3 点)   |



## 観点ごとのルーブリック得点を記載した採点簿

| 学籍番号    | 氏名    | 導入<br>(10 点) | 内容<br>(20 点) | 構成<br>(20 点) | 結論・独創的な考え<br>(20 点) | 執筆スタイル<br>(10 点) | 言語の使用・技巧<br>(10 点) | APA<br>スタイル<br>(10 点) | 総合<br>得点<br>(100 点) |
|---------|-------|--------------|--------------|--------------|---------------------|------------------|--------------------|-----------------------|---------------------|
| R123001 | 〇〇 〇〇 | 7            | 18           | 20           | 18                  | 7                | 3                  | 7                     | 80                  |
| R123002 | 〇〇 〇〇 | 8            | 16           | 16           | 16                  | 5                | 5                  | 5                     | 71                  |
| R123003 | 〇〇 〇〇 | 10           | 18           | 18           | 20                  | 7                | 7                  | 7                     | 87                  |
| R123004 | 〇〇 〇〇 | 5            | 12           | 12           | 12                  | 3                | 3                  | 3                     | 50                  |
| R123005 | 〇〇 〇〇 | 10           | 20           | 16           | 18                  | 10               | 10                 | 10                    | 94                  |

## ライティングに関するルーブリック

課題: 学生に求める基本的なライティング力

|          | レベル4                                          | レベル3                                    | レベル2                                          | レベル1                               |
|----------|-----------------------------------------------|-----------------------------------------|-----------------------------------------------|------------------------------------|
| 課題の意図の理解 | 課題意図を十分に理解しており、レポートの記述内容が課題の要件を過不足なく満たしている。   | 課題意図を理解しており、レポートの記述内容が課題の要件をおおむね満たしている。 | 課題意図を理解しているようだが、レポートの記述内容が課題の要件を満たしていない箇所がある。 | 課題意図を理解できておらず、レポートの記述内容が課題に沿っていない。 |
| 資料の取り扱い  | 資料に関して、その内容が把握できており、論に沿ってまとめられている。            | 資料に関して、その内容が把握できており、まとめられている。           | 資料に関する記述はあるが、その内容を把握できておらず、まとめられていない。         | 資料に関しての記述がない。                      |
| 自分の立場・意見 | 自分の立場・意見が、論拠とともに提示できており、かつオリジナリティがある。         | 自分の立場・意見が、論拠とともに提示できている。                | 自分の立場・意見は提示しているが、その論拠が明らかでない。                 | 自分の立場・意見が提示されていない。                 |
| 全体の構成    | 序論・本論・結論、PREP等に沿った構成が形式的にできており、かつ内容的にも一貫している。 | 序論・本論・結論、PREP等に沿った構成が形式的にできている。         | 序論・本論・結論、PREP等に沿った記述は見られるが、形式的に欠けている部分がある。    | 序論・本論・結論、PREP等に沿った構成ができていない。       |
| 学術的な作法   | 満たしている項目が5項目である。                              | 満たしている項目が4項目である。                        | 満たしている項目が2～3項目である。                            | 満たしている項目が1項目以下である。                 |
| 日本語の表現   | 満たしている項目が9項目である。                              | 満たしている項目が6～8項目である。                      | 満たしている項目が3～5項目である。                            | 満たしている項目が2項目以下である。                 |

## レポートに関するルーブリック

課題: 自分の意見に関連する資料を3点以上選択のうえ、2,000字以内にレポートで論証する。

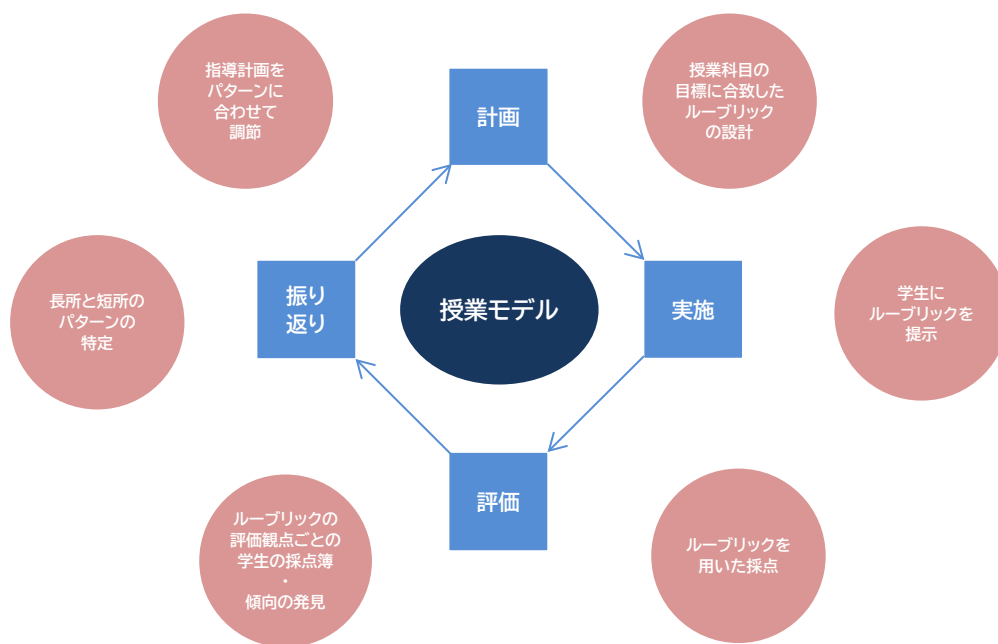
|           | 優秀                                                                                              | 良                                                                                                 | 再学習                                         |
|-----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------|
| 資料の取り扱い   | ・自分の意見に関連する資料を3点以上選択できている。<br>・種類、年代において偏りなく集めた資料をもとに検討している。                                    | ・資料が3点以上選択できている。<br>・自分の意見と取り上げられている資料との関連が分かりづらい。                                                | ・資料に関する記述がない。                               |
| 問い(問題)の設定 | ・問いがひとつの疑問文の形で示されている。<br>・問いとその背景に関連がある。<br>・問いの背景(問いが生じた経緯、その現状分析)について、客観的な事実やデータに基づいて述べられている。 | ・問いが具体的に絞り切れていない。<br>・問いとその背景に関連がない。<br>・問いの背景(問いが生じた経緯、その現状分析)について、客観的な事実やデータに基づいて述べられていない箇所がある。 | ・取り上げる問いが提示されていない。<br>・取り上げる問いの背景が提示されていない。 |
| 自分の意見     | ・文章において何が最も言いたいことなのか明確に示されている。                                                                  | ・自分の意見が複数提示されており、何が最も言いたいことなのか分かりづらい。                                                             | ・自分の意見が提示されていない。                            |
| 論証        | ・自分の意見を支える客観的な根拠・データとそれに対する解釈・説明が示されている。<br>・自分の意見とは異なる立場の意見やデータを取り上げ、それに対する批判的意見を述べている。        | ・自分の意見を支える客観的な根拠・データがすべて示されている。<br>・自分なりの解釈・説明が加えられていない(資料・データの羅列にとどまっている)。                       | ・自分の意見を支える客観的な根拠・データが提示されていない箇所がある。         |
| 全体の構成     | ・序論で取り上げている問題に対して、本論では論証(理由)が、結論では答えが示されている。<br>・各段落の関連が明確である。                                  | ・序論・本論・結論に書くべき内容のいずれかが欠けている。<br>・各段落の関連が分かりづらい。<br>・本論で問い、自分の意見と関係のない根拠・データを用いたり、結論で新たな議論を書いている。  | ・文章全体の構成ができていない。                            |
| 学術的な作法    | ・すべての項目を満たしている。                                                                                 | ・1～4の項目を満たしているが、5～9の項目のいずれかが満たされていない。                                                             | ・1～4の項目が満たされていない。                           |
| 日本語の表現    | ・すべての項目を満たしている。                                                                                 | ・1～3の項目を満たしているが、4～9の項目のいずれかが満たされていない。                                                             | ・1～3の項目が満たされていない。                           |

## 6 ルーブリックと授業改善

ルーブリックの得点を個々に見ることで、学生一人ひとりやクラス全体の状況がよく分かるようになります。ルーブリックの評価観点ごとに得点を分析することにより、次のようなことが明確になります。

- どの部分がうまくいっているか。
- 学生集団として優れた部分はどこか。
- 学生集団としてどの部分に弱点があるか。
- ある特定の部分のスキルを伸ばすためにはどのように教育方法を変えればよいか。
- ルーブリックのどの部分をより明確に書き直す必要があるか。
- 特別な支援を必要とするグループもしくは個人の学生はいるか。

授業改善のための授業モデル(ルーブリックの使用)



# 7

## 学生へのルーブリックの開示

山陽小野田市立山口東京理科大学では、学生へのルーブリックを開示する授業支援システムとして SOCU-Moodle(ムードル)内に、「講義で用いられるルーブリック集」のページを用意しています。また、コース(授業科目)のページにも、ルーブリックを掲載できますので、どうぞ活用ください。

【SOCU-Moodle のアドレス】

<https://tussoy.mrooms.net/>

### 講義で用いられるルーブリック集

Home / マイコース / 特別コース / 講義で用いられるルーブリック集

ナビゲーション

- Home
- ダッシュボード
- サイトページ
- マイコース
  - 特別コース
    - 講義で用いられるルーブリック集
    - 参加者
    - バッジ

#### ルーブリックの公開

**学生から投稿**

開講年度、配当学年ごとにフォルダ分けしています。  
ルーブリックの追加は『編集モードの開始』から  
各フォルダの『編集』→『設定を編集する』→『コンテンツの追加』の順で追加できます。

#### 2022年度ルーブリック

1年生科目

- R4\_早期体験学習ルーブリック(評価基準).pdf
- ヒューマンコミュニケーション1演習\_ルーブリック(集中講義).pdf
- ヒューマンコミュニケーション2演習\_ルーブリック.pdf
- 基礎生物学SGD\_ルーブリック.pdf
- 情報リテラシー\_ルーブリック.pdf
- 入門情報リテラシー\_ルーブリック.pdf
- 薬学倫理\_ルーブリック評価基準(西本).pdf
- 薬学倫理\_ルーブリック(百深).pdf

2年生科目

- Listening and Speaking Skills A (A・B・Cクラス)\_ルーブリック.pdf
- 有機化学実習\_ルーブリック.pdf

## 参考文献

- ・ 深堀聡子「アウトカムに基づく大学教育の質保証」東信堂, 2015 年
- ・ ダネル・スティーブンス, アントニア・レビ「大学教員のためのルーブルック評価入門」玉川大学出版部, 2014 年
- ・ リンダ・サスキー「学生の学びを測るアセスメント・ガイドブック」玉川大学出版部, 2015 年
- ・ 早田幸政「大学の質保証とは何か」エイデル研究所, 2015 年
- ・ 吉田一郎, 大西弘高「実践 PBL チュートリアルガイド」南山堂, 2004 年
- ・ 鈴木克明「インストラクショナルデザインの道工具箱」北大路書房, 2016 年
- ・ 西岡加名恵「資質・能力を育てるパフォーマンス評価」明治図書, 2016 年

ルーブリック作成の手引き アウトカム重視の大学教育

---

令和5年10月30日

山陽小野田市立山口東京理科大学FD委員会

委員長 薬学部薬学科 教授 和田 光弘

委 員 共通教育センター 教授 堤 千佳子

委 員 工学部機械工学科 教授 吉田 和司

委 員 工学部電気工学科 教授 阿武 宏明

委 員 工学部応用化学科 教授 白石 幸英

委 員 工学部数理情報科学科 教授 福井 一彦

委 員 薬学部薬学科 教授 武田 健